

口永良部島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

平成20年1月25日14時に、噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)：警報解除を発表しました。

火山性地震や火山性微動は少なくなり、新岳火口では火口周辺に影響を及ぼす噴火(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)の兆候は認められなくなりました。

火口内で噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)では警戒が必要です。

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)をレベル1(平常)に引き下げました。

現在の活動概況

・地震、微動活動(図2)

火山性地震の発生は2007年9月頃から減少し、それ以前にみられていた一時的な多発も認められません。また、火山性微動の発生も同年9月頃から減少傾向を示し継続時間も短くなっています。

・地殻変動(図1、図3)

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありません。

・噴気活動(図2)

遠望カメラ(新岳火口の北西約3km)の観測によると、新岳・古岳の噴気には変化はありません。

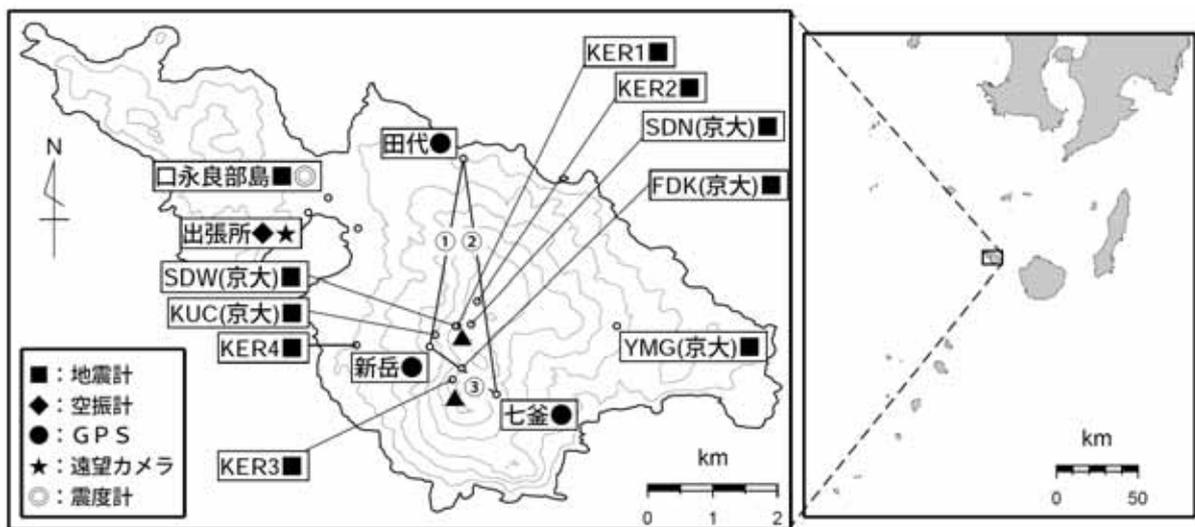


図1 口永良部島 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学のデータも利用して作成しています。地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)にも掲載しています。

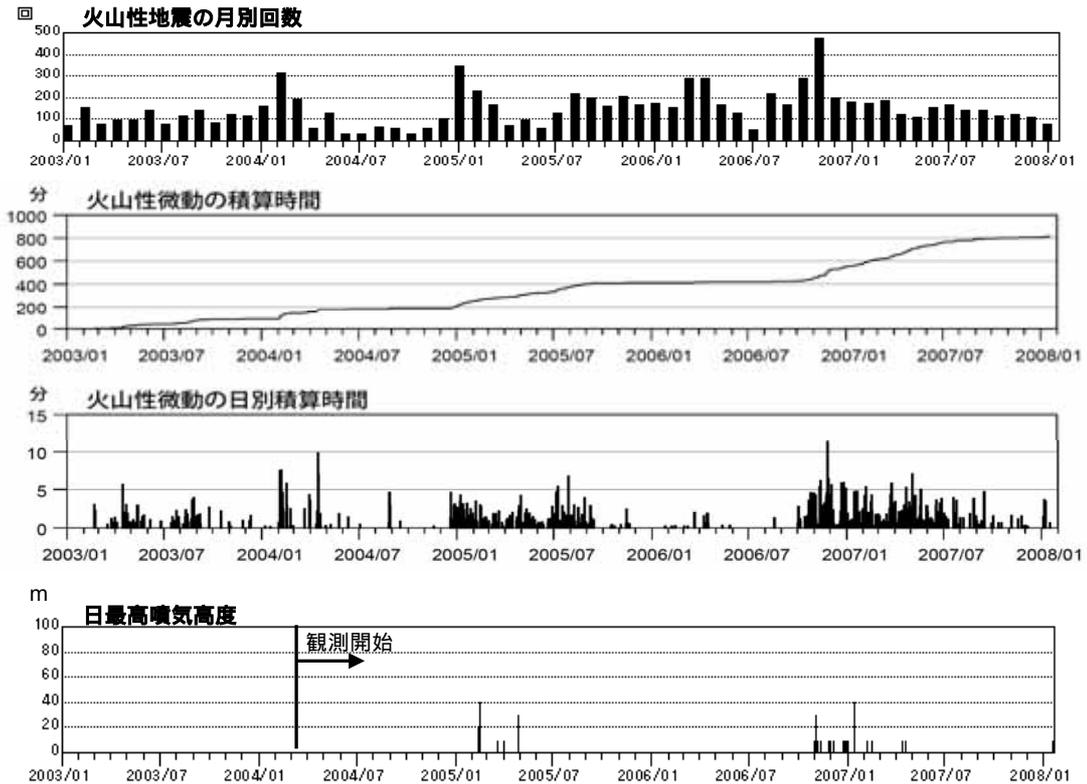


図 2 口永良部島 火山活動経過図(2003 年 1 月 1 日～2008 年 1 月 24 日)
・火山性地震及び火山性微動は 2007 年 9 月頃から少なくなっています。

* 2005 年 12 月 15～28 日間は京都大学のデータを使用しました。
* 遠望観測 2004 年 3 月 10 日観測開始

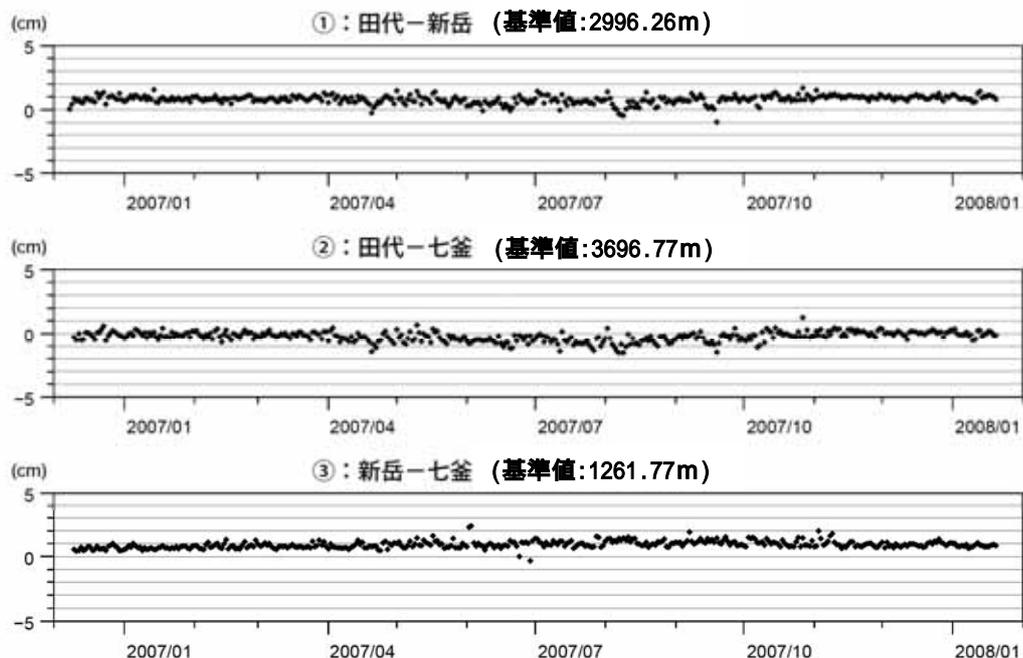


図 3 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月 8 日～2008 年 1 月 24 日)
火山活動に起因するとみられる変化はありません。この基線は図 1 の ~ に対応しています。